



立命館大学スポーツ健康科学会  
2026 年度 総会 議案

■日時： 2026 年 5 月 26 日（火） 12：30～13：00

■会場： R102

■議案

1. 開会
2. 学会長挨拶
3. 議長の選出
4. 【第 1 号議案】役員を選出 .....2
5. スポーツ健康科学会学生委員会 2026 年度年間活動予定報告 ..... 3
6. 【第 2 号議案】2025 年度事業報告ならびに 2025 年度決算報告について .....10
7. 【第 3 号議案】2026 年度事業計画について .....15  
2026 年度予算案について .....17
8. スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰式 .....18
9. 閉会

以上

# 第1号議案

## 役員を選出について(案)

立命館大学スポーツ健康科学会会則に基づき、以下の役員を選出する。

	教員会員	院生会員	学生会員
会長	真田 樹義		
副会長	家光 素行		
常任委員	村上 晴香 祐伯 敦史	坂本 迅 (M1)	前 亮輔 (4回生) 谷内 駿平 (4回生) 湯浅 謙太郎 (4回生) 子安 芽生 (4回生) 江崎 穂乃花 (4回生) 吉本 玲菜 (4回生) 安井 陽香 (3回生) 和多野 咲衣 (2回生) 宮里 くに (1回生) 丸尾 和泉 (1回生) 松本 倫治 (1回生) 日高 鈴之介 (1回生)
幹事	海老 久美子		
監査委員	長野 明紀	山下 優真(M1)	定時 真 (3回生)

以上

# 学会学生委員 年間活動予定報告

2026年 5月26日総会

# 本日のアジェンダ

- ・今年度の活動目的
- ・**2026**年度のお茶会開催結果報告
- ・今後の学会学生委員のスケジュール
- ・立命館スポ健**DAY**について
- ・**2027**年度の新入生歓迎会について

# 今年度の活動目的

- みんなに必要とされる学生団体になる

スローガン：一旦、やってみん？

行動指針：

1. やったことないことやってみる
2. 楽しくておもしろいことを！

2026年度現在4回生8人 3回生2人 1回生6人



# 2026年度お茶会開催

4月20日 5限 レコスタジオにて開催

海老先生サポートの元、お菓子を食べながら、  
下級生から上回生へ何でも質問会を実施  
(学業、サークル、留学、一人暮らしなど)

1～4回生で20名以上が参加  
→1回生6名が学会学生委員になることを決意



# 今後の学会学生委員スケジュール

<b>8月初旬</b>	オープンキャンパス企画
<b>秋学期</b>	PBL運動会企画
<b>9月（未定）</b>	立命館スポ健DAY（今年度初）
<b>3月</b>	卒業パーティー
<b>来年度4月</b>	2027年度新入生歓迎会

# 立命館スポ健DAYについて

時期：9月末開催予定

内容：「ゼミ対抗祭り」

スポ健生によるスポ健生のための学祭。

5つ程ゼミの出店としてゼミで学んだことを生かしながら

誰もが（子どもから大人まで）体験をできるブースを

3.4回生に夏休み中に作成してもらう。

# 立命館スポ健DAYについて

対象：

1.2回生

→各ゼミがどのような活動を行っているか知れる

3.4回生

→ゼミ活動での知見をアウトプットする

社会人マナー講座や就活ブース、院生企画

現在様々な企画を模索中



## 第2号議案

### 2025 年度事業報告

- (1) 多様な学びへの補助に関して、学会発表やインターンシップなど学会の知の向上に関わる参加費補助、並びに GAT プログラム生の英語力向上を支援するため、Step-up コースの TOEFL 関連講座の受講料・受験料の補助を行いました。
  - ・GAT プログラム Step-up コース:TOEFL 関連講座 受講料補助・受験料補助 (年 2 回)
    - 補助申請学生数:0 名
  - ・国内外 インターンシップへの参加補助(年 2 回)
    - 海外(GAT プログラム):ハワイ 前期 8 名、後期13名
    - 国内:2名
- (2) 大学院生・学部生の学会等への参加費・交通費等補助(随時)
  - ・2025年度学会補助申請学生数:58名
    - うち海外学会参加者25名／国内学会33名
  - ・主な参加学会
    - 第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会
    - 第38回日本トレーニング科学会大会
    - ACSM Annual Meeting 2025
    - European College of Sports Science など
- (3) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第16巻を発刊しました。新任教員特集、サバティカルを行った教員の活動報告、インターンシップ報告記をはじめ、スポーツ健康科学部15周年記念シンポジウム報告、スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程の修士論文の概要、博士課程後期課程の博士論文要旨および審査報告書等も掲載し、スポーツ健康科学部・研究科の年間の1年をまとめました。同誌は、学位授与式に卒業・修了生へ配布するとともにRITSUMEIKAN Student Portalでも公開しています。
- (4) 卒業論文優秀者22名に対してメダル、及び図書カードを贈呈しました。
- (5) 「スポーツ健康科学」における教育、研究活動を発展させ、この分野で活躍する人材育成の支援を目的として第8回藍星賞の候補者募集を行い、4名の受賞者を発表・表彰しました。

- (6) 2025年度は、スポーツ健康科学部の13期生が卒業を迎え、博士課程前期課程15期生、ならびに同後期課程12期生が修了しました。卒業・修了生の門出を祝い、学位授与式が開催された3月22日に、びわ湖大津プリンスホテルにて、学生委員会が企画した「卒業・修了記念パーティー」を学会主催で開催しました。
- (7) 学会ホームページのリニューアルを実施し、新サイトでの運用を開始しました。
- (8) 15周年記念事業を11月29日に開催し、講演者による講演および卒業生によるパネルディスカッションを実施しました。

以上

## 第2号議案

### 2025年度決算報告(2025.4.1~2026.3.31)

#### 1. 収入の部

予算			決算		
会費収入	教員会員	408,000	会費収入	教員会員	408,000
	大学院生会員 学部生会員	7,892,000		大学院生会員 学部生会員	7,892,000
前年度繰越金		26,890,688	前年度繰越金		26,890,688
卒業・修了記念P 学生自己負担		250,000	卒業・修了記念P 学生自己負担		258,924
雑収入	預金利息	9,238	雑収入	預金利息	55,260
	その他			その他	370
合計		35,449,926	合計		35,505,242

#### 2. 支出の部

予算		決算	
共通企画	4,050,000	共通企画	3,814,996
		講演会	0
		学会誌	624,117
		卒業・修了記念パーティー補助	1,821,166
		15周年記念	409,543
		その他	960,170
大学院生企画	2,550,000	大学院生企画	1,602,675
		学会参加費補助	1,602,675
		その他	0
学生企画	1,250,000	学生企画	1,044,104
		学会参加費・インターンシップ <sup>o</sup> 補助	727,304
		学習・交流企画(優秀卒論表彰)	316,800
		その他	0
その他	1,100,000	その他	1,184,256
		学会業務に関わる人件費	1,184,256
		通信費、予備費など	0
次年度繰越金	26,499,926	次年度繰越金	27,859,211
合計	35,449,926	合計	35,505,242

#### 3. 定期預金

積立年度	金額	口数	保有金額
2014	2,075,000	1	17,575,000
2015	1,500,000	1	
2016	3,000,000	1	
2017	5,000,000	1	
2018	3,000,000	1	
2019	3,000,000	1	

# 立命館大学スポーツ健康科親睦会 決算監査報告書


記

2025年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理されていることを認めます。

2026年 5月 8日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

長野 明紀 

スポーツ健康科学部

教授

印

以上

# 立命館大学スポーツ健康科学会 決算監査報告書

記

2025年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理されていることを認めます。

2026年 月 日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

印

大学院スポーツ健康科学研究科

博士課程前期課程 2 回生

星 凜 武



以上

## 第3号議案

### 2026年度事業計画について(案)

- (1) これまでと同様に、スポーツ健康科学部・研究科の人材育成目的を達成するため、学生の教育・研究活動を支援します。特に、大学院生や学部生が国内外の学会に参加するための旅費等を支援し、学生の研究力の向上、研究成果の発信機会を支援します。  
あわせて、GATプログラム生の英語力向上のための TOEFL 関連講座の受講料・受験料補助や、海外インターンシップに参加する学生への参加費用の補助等を行い、国際的な場での活躍を目指す学生を支援します。
- (2) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 17 巻を発行します。
- (3) 卒業論文優秀者に対してメダル・及び図書カードの贈呈をします。
- (4) 第 9 回藍星賞表彰制度について、2026 年 2 月に募集し 4 件の応募がありました。選考の結果 4 名の受賞者が決定し、2026 年度本総会にて受賞者を発表、受賞記念として盾を贈呈します。また第 10 回藍星賞の募集を 2027 年 1 月に行います。
- (5) スポーツ健康科学部第 13 期生の卒業ならびに博士課程前期課程 16 期生、同後期課程 13 期生の修了に向けて「卒業・修了記念パーティー」を企画・実施します。

これからも引き続き、学会員の皆様(学生、大学院生、教員)の要望を踏まえた学会活動を展開していきたいと考えております。建設的なご意見やアイデアなどにつきましては、もよりの常任委員、もしくは事務局であるスポーツ健康科学部事務室までお寄せ下さい。

以上

## 学部学会誌の発行形態の変更について（審議）

### — 電子公開を基本とした発行形態への移行 —

#### 1 趣旨

近年、多くの大学では、紀要や研究報告について機関リポジトリ等を通じて電子公開する形が一般化している。スポーツ健康科学分野も電子公開を中心とした発行形態が進んでおり、本学部学会においても、学会誌の役割や全国的動向、冊子体発行に伴う経費・管理負担等について検討を重ねてきた。また、本学会の会員は学部学生および大学院生全員であるが、現行の冊子体配布は主として卒業年次学生を対象としており、学会誌が会員全体に十分共有されているとは言い難い状況にある。こうした状況を踏まえ、学会誌をより多くの学生・大学院生に開かれた形で共有し、研究成果の保存性・公開性を高める観点から、電子公開を基本とした発行形態へ移行を提案する。

#### 2 内容

2026年度以降の学部学会誌について、以下の方針により発行する。

##### (1) 電子公開への移行

学部学会誌掲載論文について、機関リポジトリを通じた電子公開を基本とする。

##### (2) 学会ホームページ・アーカイブ整備

学会ホームページを学会誌および学会活動の情報発信基盤として位置づけ、過去号を含めたアーカイブ整備および電子版への導線整備を進める。

##### (3) 移行期における周知

発行形態の変更に伴い、今年度は電子化の趣旨および閲覧方法等を周知するためのリーフレット（同内容のポスター）を作成し、学生・大学院生・関係各所へ案内を行う。

リーフレット（ポスター）には、学会誌電子版へのアクセス方法（QRコード等）に加え、学会誌の役割や学会活動の紹介等を掲載し、電子公開への円滑な移行を図る。

##### (4) 冊子体発行の終了

学会誌の冊子体発行は終了し、電子版を中心とした発行形態へ移行する。

#### 3 期待される効果

- ・研究成果の公開性・保存性の向上
- ・全学生・大学院生へのアクセス拡大
- ・学会ホームページを活用した情報発信の強化
- ・冊子体発行に伴う印刷費・郵送費・管理負担の軽減
- ・学会活動の活性化および将来的な事業充実への活用可能性

#### 4 決議事項（案）

2026年度より、学部学会誌は機関リポジトリを活用した電子公開を基本とし、冊子体発行を終了する。なお、移行初年度は周知のためのリーフレットを作成し、電子版への導線整備を行う。

以上

## 第3号議案

### 2026年度予算(案)(2026.4.1~2027.3.31)

#### 1. 収入の部

予算		事業計画、積算根拠	
会費収入	教員会員	408,000	12,000円×34名=408,000円
	大学院生会員	904,000	8,000円×(M64名+D49名)=904,000円
	学部生会員	7,920,000	8,000円×990名=7,920,000円
卒業・修了パーティー学生自己負担		488,000	4回生 244名×2,000円
預金利息		9,238	
合計		9,729,238	

#### 2. 支出の部

予算		事業計画、積算根拠
共通企画	3,550,000	学会誌発行(17巻) 600,000円 講演会、セミナー企画 500,000円 卒業・修了記念パーティー 2,000,000円 藍星賞記念品 50,000円
大学院生企画	2,550,000	学会参加費補助 2,550,000円
学生企画	1,250,000	学会・インターシップ <sup>o</sup> 参加費補助 850,000円 GAT Step-Up Program 補助 100,000円 卒業論文優秀者の表彰 320,000円
積立金	0	定期預金へ
その他	1,200,000	学会業務に関わる人件費
	25,000	通信費など
合計	8,575,000	
次年度繰越金	1,154,238	(収入)-(予算)

# 第4号議案

## 2025 年度スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰について

藍星賞とは、人材育成、研究成果発信の好循環をより促進することを願い、本学会として「スポーツ健康科学」分野において、教育ならびに研究において顕著な業績・功績をあげた若手を中心とした教職員・学生を顕彰する表彰制度である。

2025 年度については、下記の4名の方々が各部門の受賞者に決定したため、表彰式を執り行う。

### 記

#### 【2025 年度藍星賞受賞者】

	受賞者
1.研究部門	山口 慶一
2.教育部門	森 理紗子
3.国際部門	石橋 彩
4.社会連携部門	堀内 元

各受賞者の推薦理由は以下の通り。

#### 1) 山口慶一氏

山口慶一氏は、2018年3月にスポーツ健康科学部を卒業後、2020年3月にスポーツ健康科学研究科博士課程前期課程を修了している。また2023年3月にはスポーツ健康科学研究科博士課程後期課程を修了し、博士号を取得している。博士課程後期課程在学中には、日本学術振興会特別研究員(DC2)にも採用されている。現在、立命館大学 総合科学技術研究機構に所属し、これまでに筆頭論文7報(査読あり)、共著論文8報(査読あり)を執筆している。また、2025年5月には「2025年度立命館大学 若手研究者育成プログラム研究奨励賞」を受賞しており、今後の研究活動の発展が期待できることから、藍星賞研究部門の候補者として推薦する。

#### 2) 森理紗子氏

森理紗子氏は、2019年3月にスポーツ健康科学部を卒業し、2021年3月にスポーツ健康科学研究科博士課程前期課程を修了した。その後、立命館大学食マネジメント研究科博士課程後期課程に進み、2024年3月に博士号を取得した。2024年4月より、立命館大学 総合科学技術研究機構 専門研究員を務め、2025年4月よりスポーツ健康科学部に助手として着任した。またスポーツ健康科学部、食マネジメント学部、薬学部が共同で新規開講した「スポーツ健康科学特殊講義 I (VC)」において、複数の学部・研究科で学んだ学際的な経験や知識を活かして、授業運営の補助に当たっている。また、スポーツ健康科学部2回生以上を対象としたPBL I・IIでも、各クラスの教育ならびに運営補助を行い、PBL I・II 合わせて全16クラスの円滑な運営に多大なる貢献をしていることから、藍星賞教育部門の候補者として推薦する。

### 3) 石橋 彩氏

石橋 彩 氏は、管理栄養士資格取得後、2013 年にスポーツ健康科学研究科へ進学しました。大学院在学中から今日に至るまで、国際舞台におけるスポーツ栄養サポートに取り組んでいます。

前期課程在学中には、女子陸上長距離選手の海外合宿(アメリカ合衆国・ボルダー、アルバカーキー)やフュンシング日本代表の世界大会(ロシア・カザン)に帯同し、日本特有の食事文化がない海外の地での栄養戦略の立案と実践を経験してきました。

後期課程進学と同時に HPSC 国立スポーツ科学センター研究員となり、研究とハイパフォーマンス支援を両立してきました。リオデジャネイロオリンピック(2016)、平昌冬季オリンピック(2018)をはじめとする国際大会において、トップアスリートの栄養サポートに携わり、日本の競技力向上に貢献しています。

2018 年に後期課程を修了し、博士(スポーツ健康科学)を取得しました。あわせて、公認スポーツ栄養士および IOC Diploma in Sports Nutrition を取得しており、学術的基盤と国際的専門性の双方を備えています。

さらに、今年開催されたミラノ・コルティナ冬季オリンピック(2026)においても、現地にてフィギュアスケート日本代表チームの栄養サポートを担当し、選手のコンディショニングに貢献しました。豊富な国際経験と実践力は、本学会国際部門の活動推進に大きく寄与するものと考えます。

以上の理由から、石橋 彩 氏を本学会藍星賞国際部門受賞にふさわしい人物として推薦いたします。

### 4) 堀内 元氏

堀内元氏は、自身のスポーツバイオメカニクス研究に立脚し、プロ野球チームの動作解析に取り組んでこられた。近年では、立命館大学体育会野球部のデータ分析、立命館宇治高校のデータ分析と社会連携を広げている。大学体育会野球部の躍進という結果やミーティングでのデータに基づくディスカッションに寄与し、立命館宇治高校でのデータに基づく部活動改革という DX 推進にも大きく寄与している。また、立命館守山高校や立命館高校との接点も拡大し、データに基づく部活動指導に向けて、充実したデータベース構築へとつながりつつある。部活動の地域移行も社会的な話題となる中、学術研究との接続による部活動を通じた教育といった新しい価値を創出している点、高く評価されるべき活動である。また、野球部に限らず、大学体育会や附属校部活動のデータに基づくパフォーマンス向上の実践は、スポーツ健康科学の社会実装として今後のさらなる発展を期待できる分野であると考えられる。